

『神奈川大学史紀要』の創刊にあたって

神奈川大学百年史編纂委員会委員長 吉 井 蒼 生 夫

神奈川大学は、二〇二八年を迎える創立百周年記念事業の一環として『神奈川大学百年史』を編纂し刊行することとなった。そしてこのたび、この『神奈川大学百年史』の学術的内容の充実と編纂作業の円滑な推進をはかるため関連事業として『神奈川大学史紀要』を創刊し（年一回刊行）、百年史刊行に向けて資料の調査蒐集や学内外にわたる情報交流をはかる一方、神奈川大学史の研究成果を積み上げていくこととした。

「紀要」の刊行にあたっては、神奈川大学百年史編纂委員会及び同専門委員会で具体的内容や刊行スケジュール等の検討を行ったのち、専門委員会で編集作業を行った。この創刊号の発刊によって先ずは百年史編纂の第一歩が踏み出されたことになる。

これまでの本学における大学史編纂事業を振り返ると、一九六〇年代に計画された「神奈川大学四十年史」は、長倉保経済学部教授（当時）のもとで資料の蒐集、稿本の作成などがすすめられたが、刊行間近になって大学紛争など当時の学内状況から編纂活動はやむなく中断され、幻に終わった。その後、創立五十周年記念を機にあらためて大学史編纂に着手することになり、初代委員長・山本新外国語学部教授（当時）及び第二代委員長・山口徹経済学部教授（当時）のもとで編纂活動が継続的に進められ、一九八二（昭和五七）年八月に『神奈川大学五十年小史』を刊行するに至った。

本学修史事業の最初の成果ともいえる『五十年小史』の編集後記には、「資料蒐集は必ずしも十分なもの」ではなく、とくに「横専時代及び新制大学移行期の資料はほとんど未蒐集、未整理の状態にあった」とあり、「本学の正史を短期間に編纂することはほとんど不可能なこと」であったことから、「正史の編纂は後日を期す」と記されている。このよ

うな経緯により『五十年小史』の刊行後に引き続き資料の蒐集、整理が進められ、それらの諸資料は、順次『神奈川大学史資料集』として刊行することになった。一九八四（昭和五九）年には第一集として「特集 昭和四十二年『四十年史座談会記録』」を刊行し、これまでに横浜専門学校会議録、神奈川大学会議録や国立公文書館所蔵横浜専門学校資料、学生新聞等の復刻など合計三十二集を継続的に刊行している。

二〇二八年の創立百周年に刊行を目指す『神奈川大学百年史』の編纂事業は、このような先人の労苦によって成し遂げられてきた大学史編纂の歴史を基礎として推進するものである。言い換えれば、百年史の編纂は、『神奈川大学五十年小史』の成果をもとに、それ以降に新たに蒐集された資料や研究の成果を踏まえてあらためて学校法人神奈川大学の百年の歴史を叙述するものであり、具体的には、一九二八（昭和三）年に開校された横浜学院、そして横浜専門学校、神奈川大学、神奈川大学附属学校の発展の歴史を教育、研究、社会活動、課外活動、施設の変遷等々について時代背景をふまえて叙述する「正史」となるものである。

なお、「紀要」には神奈川大学史および周辺地域史に関連のある研究論文や研究ノート、座談会記録、聞き取り調査報告、資料紹介、百年史編纂委員会活動日誌などを掲載する。このたび創刊された「紀要」が百年史編纂事業の円滑な推進とともに、学内外の情報交流の場として大いに役立っていくことを期待するところである。